

⑥ 6年生 | 「歴史学習」

歴史と生活を結びつけよう

○ 歴史はじめてものがたり

歴史というと自分とは関係ない遠い昔の出来事のように感じる児童もいます。しかし、普段児童が身近に何気なく接しているものにも歴史があります。そうしたものは、いつ頃から始まったのかを問いかけてみましょう。歴史と自分たちの生活を結びつけることによって、先人のおかげで今の暮らしがあるということがわかってくるのではないのでしょうか。

○ 給食から考えてみよう

給食の時間です。今日のメニューは、肉じゃが、あさりのスープ、ごはん…。日本人がいちばん昔から食べていたものは、何でしょうか？



温かいスープは縄文時代に土器の発明によって飲むようになったと考えられます。温かいスープを初めて飲んだ縄文人はどういう気持ちだったのでしょうか？ ごはんは弥生時代です。お米が中国から伝わり日本各地に広まりました。じゃがいもは、いつ日本に伝わったのでしょうか？ 江戸時代です。オランダ語でジャカルタを意味するジャガタライモからこの名前がついたと言われています。16世紀末に日本に伝わりました。牛肉を食べるようになったのは明治時代です。おふくろの味の肉じゃがも江戸時代にはなかったんですね。

○ 読書から考えてみよう

読書の時間です。楽しそうに読んでいるのは、冒険小説？ 推理小説？ さて、昔の人も小説を読んでいたのでしょうか？



平安時代に紫式部が書いた『源氏物語』が世界で初めての小説と言われています。『源氏物語』はこの頃に発明されたひらがなで書かれました。ひらがなは漢字をくずして作られました。漢字は、古墳時代に渡来人によって大陸から伝わった文字だと言われています。それ以前は、日本には文字がなかったこととなります。漢字と一緒に紙や筆も伝わりました。文字がないと、手紙も書けません。何かを伝えようとしたら、口でしゃべるだけだったのでしょうか？ また、『源氏物語』を読みたい人はどこで手に入れたのでしょうか？ 本屋さんがあったのでしょうか？

○ 暮らしぶりを想像してみる

暮らしの中のさまざまなものが発明される前や伝わる前の暮らしは、どのようなものだったのでしょうか？ そして初めてそれを見た人たちはどんな感想を持ったのでしょうか？ 便利な現代の自分たちの生活から、昔の人の生活を想像して見ることで、歴史への理解が深まります。歴史学習のまとめとして、取り組むとよいでしょう。